

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月8日
明美ヶ丘こども園

1. 本園の教育目標

- ・明るく健康で、生き生きとしている子ども
- ・自分で考え、工夫し、意欲を持って取り組む子ども
- ・心豊かな、思いやりのある子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1, 安全管理の課題を職員全体で検討し、園独自のマニュアルを作成する。
- 2, 子ども達に育てたい力を職員全員が共有した上で、保育活動の見直しをはかり、実践していく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	<p>◎防災について</p> <p>*多様な防災訓練を計画・実践・振り返りをして、より防災意識を高めしていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児部同様幼児部も毎月行う（4月から） ・乳児部・幼児部合同での場合は、予告なしの訓練も行う <p>*R4の振り返りとともに、実施した放課後に職員全員で集まって短時間で振り返りを行い、問題点や見直しを共有化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市の防災マニュアルを研鑽するとともに、自園に即したものを追加し、自園に合った防災マニュアルを完成させていく 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回（定期的に）避難訓練を行ったことで、子ども達にも「放送が鳴ったら静かにする」ということが早い段階で定着した。訓練の約束も間があかないことで子ども達の理解に繋がった。 ・津波想定や不審者訓練等、今年度初めて行うことができた。やってみてわかったことや問題点も上がり、対応を考えるきっかけとなりよかった。 <p>例) 誰が持ち出せるかわからないため、避難リュックにクロスカラーリボンをつけておく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数確認時、顔と名前を一致させるため、名簿を各自携帯する（メモ・アイポッドタッチ等で） ・訓練後の反省は職員全員では集まらなかったが、学年で即時振り返りをする事で次回意識することに繋がりが良かった ・不審者情報が日々来ているが、読むだけで良いのかどうか。園外保育予定時等は、特に情報が来た場合の対処を決めておくことも必要かも。 ・今年度は、毎月防災訓練を行う形になり、地震・火事だけに限らず、不審者・水害・津波は初めて行った。初めてということで、計画・反省の中で、自園に合ったものとは何かを考える時間にもなった。 ・計画は持ち回りだったが、計画者自身も色々なことを考えて検討し計画するので、各々の防災意識がより高まったように思う。 ・元日の地震は、子どもにとっても記憶に深く残るものとなっている。大きな被害は園舎・子どもともになかったとはいえ、子どもたちの地震に対する敏感さや意識の変化は感じられる。（実際に、遊びでも地震・津波というワードは出ている） ・様々な場面を想定した訓練ができたことで、その都度新たな気づきや改善点を見つけられた。訓練をしていたとしても実際、元日のような大きな災害が保育中に起きたら…という心配な点はある。 ・候補日のみ挙げて予告なしの訓練は初めてだったため、より本番に近い状況で行えたと思う。 ・チューリップクラブ職員の災害時の対応が幼児部と違うと感じた時があった。乳児部も合わせて全て共通にしておかなければならない点があるのではないか。 ・乳児部と合同の訓練を行ってはいるものの、幼児部のみで

			<p>行う訓練の方が数としては多い。乳児が加わることで難しくなる想定も多く、実際に逃げる際には乳児もいる状況のため、もう少し合同の数を増やせると良いのかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無線を使いこなすことが難しい。音が聞こえなかったり、調子が悪かったりすることもある。双方向で確認できているかわかりにくい。有事の時にどうか。 ・マニュアルの完成には至っていないと思われる。仮にできたとして、その後どう運用していくかも課題である。
2	<p>◎安全管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ＊前年度の検証記録を継続して、ケガのおきやすい条件を知り、気を付けるべきことを知ることで、職員の安全管理意識を高めるとともに、子ども達自身にも事故防止や安全管理の意識を高めていく ＊遊び方やルールについて職員全体で見直し、園内外の事故防止に取り組む 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット・怪我の記録は、他クラスや学年のものを見て、自身の保育に置き換えたり、気を付けて保育をしようという意識に繋がった。また、記録を通じて、園全体で共通認識することができた。特に年少では身近なもの（セロテープ・ハサミ等）について、使用する際に再度やり方を検討するきっかけになった。 ・遊具の約束・ルールなど全体で統一出来て良かった。声を掛けやすくなった。 ・2学期の初めに思わぬ場面でのケガが続いた。（骨折・脱臼）気を付けていてもケガや事故が起こることを気に留め、子どもの体の変化もよく心得ておかなければならない。 ・成長に合わせて危険な場面が変わっていくことを気に留めて様子を見ていく必要がある。 ・新年度初めに、園のルールを改めて見直したり、職員間で共通にしている部分も多くなったので、意識の変化に繋がったように思う。 ・サッカーに関しては、年長男児の技能と園庭の環境（フェンスの高さ）が適しておらず、ボールが道路に飛び出す事例が発生。すぐに、フェンスの高さを高くする対策をとり、子どもたちとも遊び方を改めて見直すきっかけになった。 ・ミニ広場の使い方や玩具の配置等を、今年度変更してみた。同じエリアでも、カラーコーンで区切ることでその環境に合った遊び方を子どもなりに考えているのが感じられた。また、保育室では十分に場所を確保できない縄跳び等も、広い場所でできることで伸び伸びと遊べていたと思う。 ・ヒヤリハットを書くのに迷った事案があった。今後は書くことで自分も含め、園全体の意識の変化に繋がる可能性があるため、積極的に書いていくと良い。（数が多いクラスが心配、問題あるという認識ではないため） ・バスの記録は内容が伝わりにくいケースがあった。書式に改善の余地があるのか、書き方次第なのかは不明。 ・遊び方のルールを必要に応じて検討することは良いのだが、マニュアルがあるわけでもなく、個人で書き直したりメモをしたりといった範囲なので、誰が見ても分かる共通の物があるとよい。
3	<p>◎園内研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ＊新人の育成や体制が変わることを踏まえ、「明美ヶ丘こども園」の教育方針・教育理念を再確認し、登園のめざす保育として、子ども達に育てたい力を職員全体が共有した上で、テーマを決めて取り組む 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切保育の園内研修を行ったことで、自身の振り返りだけでなく、他の先生の意見を聞いて良かった。読み合うことで意識づけになるが、時間が経つと意識が薄れたり、子どもの姿も変わってくるため、定期的に意見交換したりマニュアルを読みあうことが大事。改めて、全体で共有にする部分や見直す必要がある部分が見つかり、不適切保育防止に取り組む姿勢へと変わったと思う。 ・年少園内研修で、個人に焦点を当てたテーマにしたため、その時に本当に聞きたいことへの具体的な意見を聞くことができ、次に繋がった。全部実行できているわけではないが、対応の参考になり、よかった。

<p>*不適切保育防止に取り組む（ガイドラインをもとに）</p> <p>*実践内容を保護者にも伝わる方法として、ICTを利用して見える化に努力する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「おたよりで子どもの様子がわかり写真付きで良い」という意見が保護者から聞かれ、よかった。なるべく活用する努力をしていることが結果に繋がったと感じる。 ・お知らせお願いも、リアルタイムで送るようにしているため、忘れ物の防止になっていると感じる。ただ、おたよりばさみを見なくなってしまい、紙媒体でのお便りを挟む場合ダブルで送る必要が出てきた。保護者にとって便利でも保育者にとって負担が増えている部分もある。 ・ICT化になり、今までよりもタイムリーに写真添付で保護者に伝わりやすくしていった。見える化しているが、伝わりきらない保護者がいるのは現状。個別連絡もしたい時にできる利点はある。仕事の効率化になっていると思われる。 ・自分が提示した園内研修について、時間内で様々な意見をいただくことができ、貴重な時間だったと感じると共に、さらに話を発展させるにはもう少し時間がほしかった。 ・他クラスの研修を通して、そのクラスの実態や保育者の考えを知る良い機会であった。
-------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省を生かし、今年度はより充実した取り組みを行えたと感じている。また、元日の地震の経験は職員と子ども達にとっても大きく、意識の高まりと新たな課題にもつながったと思う。マニュアルの大まかな完成には至ったが、細部を見直し検討の繰り返しを図る必要がある。 ・安全管理については、ヒヤリハットのとらえ方を再度確認し、園全体で取り組むきっかけができた。園内環境も変化し、職員も増えていく中、共通理解を徹底していくことの難しさを感じ、マニュアル作成が必要と思われる。 ・園内研修も一定の成果は感じられたことは良かった。今後の課題はより充実した時間の確保と、その年に合った、課題を立てていくことであると思う。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・災害・不審者共により実践に近い訓練（詳細を決めない・幼児部と乳児部合同等）を増やし、振り返りを充実していく。 ・園外や天候によって、曖昧になっている個所のマニュアル化
2	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の配置が新しくなるため、全体で検討・確認していく。 ・事故防止チェックリストの活用し、定期的にチェックする体制を整える。また、リストの見直しも行っていく。
3	今後の園のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・R7年度の新たな体制に向けての、カリキュラムや行事の検討 ・幼児部・乳児部・チューリップ各々の課題を園全体で共有し、取り組んでいく。 ・ICTのより有効な活用の仕方を検討していく。（災害時のグループLINEの活用等） ・園内研修の内容を、よりそれぞれの部署に沿った内容にしていく。

6.学校関係者評価委員会の評価

- ・反省を生かし、様々な場面を想定して防災に取り組んでいることがすばらしい。
- ・小・中学校よりもICT化が進んでいて驚いた。
- ・アンケートを読み、時代とともに保護者も変化していると感じた。
- ・アンケートから、園の理念や信念をしっかりと保護者に伝えていると感じた。今後も「こども主体」を前面に打ち出していくべきである。
- ・アンケートに意見を出すということは、「思いはある」ということなので、その思いが叶えられるように、開催日などは配慮していく必要がある。学校のボランティアの募集もだんだん難しくなっている。
- ・挨拶は人間の基本であり、相互の信頼関係を築く大切なことなので、園でもしっかり定着させてほしい。毎朝、通学路に立っていても挨拶を自分からする子、挨拶したら返す子、挨拶をしても返さない子がいるのが現状。
- ・参観日が全学年同じ日だと、仕事を休む回数が減ってありがたい。→園の場所と駐車場の確保の問題があるが、乳児部と幼児部の場合は可能。
- ・小学校の不審者対応訓練は、西警察署の方に依頼している。(ビデオ上映など)
- ・不審者に遭遇したら、直ぐに学校に連絡してほしい。
- ・事件があったりした時は、意識が高まるが時間が経つと薄れていくので、繰り返し行う必要がある。
- ・コロナ禍で、行えなかったが年長児の2月の小学校体験は、今後も継続していく予定。
- ・安全管理の中で、怪我に対して職員も慎重になってしまう。しかし、禁止や制限が増えることで、子どもの運動能力の低下にもつながっていく。→小学校でも怪我が多いが、丁寧に対応していく事で、理解してもらえるようになってくる。保護者としては、ある程度の怪我はしょうがないと思うし、痛い思いをして覚えていくものなので、子ども達に色々な経験をさせてほしい。
- ・小学校では、週1回子どもの良い面についての報告会を行っている。職員会も会議と捉えるのではなく、全て研修と捉えて、職員間で行事等の話合いでは「どのように子どもを育てたいのか」「どんなことをやりたい」のか等々を語るようにしている。
- ・小学校の生活科の取り組みを、保育実践(子ども達のとらえ方や、育てる手立てがとても細かく書かれている)を参考に再構築していく予定。
- ・この地域は、国立大学をはじめ短大・専門学校・高校や福祉施設も揃っている。その特性を有効に活用していくことが今後はより必要になる。
- ・不登校や支援の必要な子ども達が増えている中、幼・保・こ・小の連携は重要になっていく。
- ・安全面を重視し、学年ごとに休み時間の場所を区切ることもあるが、学年を混ぜることで交流が生まれ、多くの育ちが見られる。

例えば、体育館で鬼ごっこをする場合、最初はぶつかることが多いが、一カ月もすると上手に止まったり、よけたりできるようになってくる。また、上級生が下級生に遊び方を教えたり、下級生が上級生の真似をしたりして、相乗効果生む。